

基本目標	ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる
------	--------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	公共施設のマネジメントと新たな魅力の創出		評価者	政策部長		
施策内容	今後の人口減少を視野に、ICT技術等の導入による行財政のスリム化と、コンパクトシティを考慮した施設の統廃合による公共施設の継続性をもった適正管理を進めます。 また、未利用町有地を町民主体の運営組織による独創的で柔軟な活用を進めることで、自然の魅力を感じられ、多世代が気軽に集える新たな魅力となる場を創出します。					
主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明	
	1	公共施設再配置	適当	有効だった	百合が丘老人憩いの家の解体に着手した。また、(仮称)富士見が丘公会堂の建設に伴う地域説明会を実施した。	
	2	財産管理経費	適当	有効だった		
	3	東大果樹園跡地活用事業 ●推進交付金対象事業	適当	有効だった	感染症対策をとりながら跡地を活用した事業を実施した。	
	4	新庁舎整備事業	良好	有効だった	ラディアン周辺への新庁舎建設に向けた民意を確認した。	
	5	行政改革の推進（まちづくり総合調整事業）	適当	有効だった	第6次二宮町総合計画前期基本計画に行政改革大綱を包含した。	
重要業績評価指標 (KPI) ①	指標名	公共施設の総延床面積 (㎡)				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	68,729.08	68,590.24	68,451.40	68,312.57	D
	実績		68,729.08	68,729.08	68,729.08	
	分析	百合が丘老人憩いの家の解体に着手したものの、解体完了が翌年度になった。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	
重要業績評価指標 (KPI) ②	指標名	年少人口（15歳未満）の転入人数 (人)				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	143	160	170	180	B
	実績		123	171	128	
	分析	東大跡地の活用が年少人口の転入人数に直結しないため、次期計画では変更する。				
	方向性	指標の見直し	目標値（指標）の見直し案		東大跡地利用団体数	
重要業績評価指標 (KPI) ③	指標名	東大果樹園跡地を活用したイベントの実施数 (回)				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	0	10	15	20	B
	実績		2	5	17	
	分析	協議会組織が事業を実施しているものの、利用の拡大に繋がっていない可能性がある。				
	方向性	指標の見直し	目標値（指標）の見直し案		東大跡地利用団体数	
重要業績評価指標 (KPI) ④	指標名	耐震未確認の地域集会施設数 (施設)				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	9	3	3	0	D
	実績		3	3	2	
	分析	残された2施設（茶屋、上町）は短期間に課題解決が困難なため、新たな指標を設定する。				
	方向性	指標の見直し	目標値（指標）の見直し案		1地区1地域集会施設化	

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・未耐震地域集会施設について、百合が丘老人憩いの家の解体に着手した。 ・東大果樹園跡地の活用について、感染症対策をとりながらの事業が活性化した。 ・第6次二宮町総合計画前期基本計画に内包する形で行政改革大綱を策定した。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ①進捗に課題がある2つの耐震未確認地域集会施設の今後の方針を考える必要がある。 ②（仮称）富士見が丘公会堂の建設に際し、地域との更なる話し合いが求められている。 			
	改善点 (課題番号 に対応)	<ul style="list-style-type: none"> ①土地の所有権に課題がある茶屋老人憩いの家については、来年度調査を実施する。 ②（仮称）富士見が丘公会堂の建設は、予算を繰り越し、地域との話し合いを進めつつ工事を進めて行く。 			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった	

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の人口減少を見据え、コンパクトシティを考慮した町づくりは大切な視点であり、公共施設の再配置や行政改革への取り組みは評価できる。 ・新庁舎整備事業は、地震対策や利便性などを考えれば、喫緊の課題として取り組む必要があるが、整備用地に関してはさらに周辺住民への丁寧な説明も必要である。 ・東大果樹園跡地は登録団体以外の町民の活用が進んでいないと思われるため、もっと町民から関心を持ってもらえるような場所づくりが必要である。 ・東大果樹園跡地の活用に関連したKPI②「年少人口（15歳未満）の転入人数」とKPI③「東大果樹園跡地を活用したイベントの実施数」は、イベントの参加人数なども指標にできると考える。 ・KPI④「耐震未確認の地域集会施設数」は調整等の取り組みがなされているのであれば、評価を上げてもいいのではないかと考える。また、インフラの維持管理（健全度・状況）に関するKPIも設定できると考える。 ・KPI④は住民との話し合いを続けていく町の姿勢を示すのであれば、「今後の方向性について地域と検討継続中の施設」などをKPIとして設定できるのではないかと考える。 			

施策評価シート（令和4年度 実績）

基本目標	ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる
------	--------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	地域で支えあう体制の構築			評価者	健康福祉部長	
施策内容	人口減少・少子高齢化の進展により、地域本来の支えあい機能が薄れる中、社会的弱者となりうる高齢者や障がい者が健やかに地域で自立した生活を送れるよう、多世代がかかわることで、地域で支えあう体制を構築します。					
主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明	
	1	地域介護予防活動支援事業	適当	有効だった	感染予防に努めながら通いの場を開催した。	
	2	生活支援体制整備事業	適当	有効だった	地域の支え合いを進めるため、みまもりガイドを作成した。	
	3	認知症総合支援事業	適当	有効だった	認知症サポーター養成講座や認知症講演会を開催した。	
	4	在宅障がい者援護事業	良好	有効とは言えない	コロナ禍により、手話講習会を縮小して実施した。	
重要業績評価指標 (KPI) ①	指標名	地域の通いの場の参加者（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	13,617 (7,000) ※（ ）はコロナ想定	3,500	5,000	7,500	A
	実績		2,253	4,033	7,801	
	分析	通いの場の開催が徐々に安定してきており、計画値を上回った。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	
	重要業績評価指標 (KPI) ②	指標名	65歳以上の要介護認定者の割合			
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
計画		17.6	16.0	16.1	16.7	B
実績			16.7	17.1	17.7	
分析		現在の指標では施策の進捗が測れないため、次期計画では指標を見直す。				
方向性	指標の見直し	目標値（指標）の見直し案		【削除】		
重要業績評価指標 (KPI) ③	指標名	認知症サポーター養成講座受講者数（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	109	30	200	200	A
	実績		35	552	327	
	分析	認知症サポーター養成講座の拡大により、計画値を上回っている。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-		
重要業績評価指標 (KPI) ④	指標名	手話通訳者養成講習会の参加者数（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	22(10) ※（ ）はコロナ想定	16	18	20	D
	実績		コロナに伴い中止	7	6	
	分析	関連する主な事業との関連性が低いため、次期計画では指標を見直す。				
方向性	指標の見直し	目標値（指標）の見直し案		【削除】		

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の通いの場は一部中止はあったものの、多くの会場で通年開催することができた。 ・みまもりガイドの作成や、シルバー緊急通報システムの改善など、ソフト、ハードの両面から地域の支え合いや見守り体制の強化を進めた。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ①高齢化が進む中で、地域における見守りや支援を更に進める必要がある。 ②高齢者のみや単身の世帯において、ゴミ出しや買い物など日常生活の支援が必要になってきている。 			
	改善点 (課題番号に対応)	<ul style="list-style-type: none"> ①お互いさまの見守り合いをはじめ、災害時の個別避難計画など、地域における支え合いを推進する。 ②生活支援について、福祉部門だけでなく関係部署とも連携し検討を進める。 			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
		<input type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響が残る中で、様々な取り組みの成果が出ている点は評価できる。 ・地域本来の支え合い機能が薄れる中、新しいシステムでコミュニティ組織を強化するとともに、伝統的なコミュニティシステムの見直しと活用を考える必要がある。 ・個人情報の取り扱いもあるため、地域における独居高齢者の支援は難しく、民生委員・児童委員の負担になっているのではないか。 ・地域で支え合う体制の構築という施策は重要であり、継続して実施していく必要がある。また、認知症予防や高齢者を社会で活用していく事業は、重点的に取り組んでいく必要がある。 ・KPI②「65歳以上の要介護認定者の割合」が削除されると、アウトカム指標がなくなってしまう。同じく削除する予定のKPI④「手話通訳者養成講習会の参加者数」と合わせ、より施策の成果を測定できるKPIの設定を工夫するべきである。 			

施策評価シート（令和4年度 実績）

基本目標	ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる
------	--------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	地域コミュニティの醸成支援	評価者	政策部長
----	---------------	-----	------

施策内容	人口減少・少子高齢化の進展に伴い、地域組織の機能縮小が危惧される中、地域の魅力の創出や地域事業の見直し、地域組織の再編検討などにより、自主的な地域組織の強化を支援します。		
------	---	--	--

主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明
	1	地域再生事業	-	-	令和3年度で事業廃止
2	町民活動推進事業	適当	有効だった	ステップアップ支援については十分な活用が図られた。	
3	防災訓練・自主防災組織育成事業	適当	有効だった	各種訓練・研修会、講演会等をコロナ禍以前と同等に実施できた。	

重要業績評価指標 (KPI) ①	指標名	住み続けたいと思う一色小学校区内住民の割合 (%)				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	79.6	82.6	84.6	86.0	B
	実績		80.0	87.7	78.7	
	分析	事業廃止に伴い、全町的な地域活動の活性化を測る必要がある。				
	方向性	指標の見直し	目標値（指標）の見直し案		【削除】	

重要業績評価指標 (KPI) ②	指標名	地域活動に参加している人の割合 (%)				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	26.5	27.0	27.5	28.0	B
	実績		29.5	32.0	25.9	
	分析	町民活動推進補助金を活用した積極的な提案はあるが、自治会等の運営に課題がある。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	

重要業績評価指標 (KPI) ③	指標名	消防団員の充足率 (%)				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	97.4	98.7	100.0	100.0	B
	実績		98.7	100.0	92.0	
	分析	消防団の充足率では施策の進捗が測れないため、次期計画では指標を変更する。				
	方向性	指標の見直し	目標値（指標）の見直し案		自主防災訓練を実施している地区数	

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・一色小学校区地域再生協議会は、地域との連携強化を図り、令和4年4月から「一色小学校区元気なコミュニティ協議会」として自立した活動を展開している。 ・町民の防災意識を向上させる各種訓練や研修、講演会等はコロナ禍以前と同等に実施できた。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ①町民活動推進補助金のスタート支援補助金の活用団体が少ない。 ②自治会等の運営に必要な地域役員のなり手不足が深刻化している。 			
	改善点 (課題番号 に対応)	<ul style="list-style-type: none"> ①スタート支援補助金の周知方法をはじめ制度内容の見直しを図っていく。 ②地区の負担軽減を含めた持続可能な地域づくりについて、引き続き地区長連絡協議会で情報交換などを行い、検討していく。 			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
	<input type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった	

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会等の役員のなり手が不足する中、行事や役職を精査し、防災や防犯といった必須なものに集約していく必要がある。 ・地区の組織運営にも影響するため、行政と連携した後継役員探しについても検討してもらいたい。 ・第3期総合戦略の中でも継続されるKPI②「地域活動に参加している人の割合」については、地区長連絡協議会などの意見を取り入れて、施策の成果が見えるKPIとなるよう工夫する必要がある。 ・町民活動推進補助金について、いかに活用団体が活動を継続できるかが重要であるため、補助金に頼らず自立した活動ができるように支援していく必要がある。 ・地域コミュニティの醸成には住民の協力が欠かせないため、住民が積極的に企画の提案や地域コミュニティ活動への参加ができるような環境を作っていく必要がある。 			

施策評価シート（令和4年度 実績）

基本目標	新しい人の流れを生む魅力あるまちをつくる
------	----------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	二宮らしい魅力の創出と発信		評価者	政策部長		
施策内容	海や山といった豊かな自然環境や充実した交通環境など、町の資源を生かした多彩な生き方を選択できる魅力あるライフスタイルを「にのみやLife」として確立し、幅広い機会を活用して町内外に積極的に発信することで、関係人口や定住人口を増やします。					
主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明	
	1	にのみやLifeプロモーション事業	良好	有効だった	オンライン移住相談会のほか、町単独の移住セミナーを開催した。	
	2	文化振興事業	適当	有効だった	文化祭について、3年ぶりにすべての部門を開催した。	
	3	観光振興対策経費	適当	有効だった	コロナ禍以前（R1）を上回る入込観光客数を記録した。	
	4	生涯学習センター管理運営事業	適当	有効だった	感染症に伴う制限がなくなり、利用状況が回復傾向になった。	
	5	図書館運営事業	適当	有効だった	コロナ禍以前（R1）を上回る年間貸出者数を記録した。	
	6	公園等維持管理運営経費	適当	有効だった	コロナ禍以前（R1）を上回る入込観光客数を記録した。	
重要業績評価指標（KPI）①	指標名	町ホームページの「にのみやLife」の閲覧数（回）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	36,323	39,800	43,300	47,000	B
	実績		36,937	44,474	42,627	
	分析	ホームページの閲覧数は伸びていないが、オンライン移住相談の申し込みは堅調である。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	
重要業績評価指標（KPI）②	指標名	ラディアン稼働率（%）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	50.2	30.0	40.0	50.0	B
	実績		29.3	44.4	48.6	
	分析	計画値に達していないものの、利用率は回復傾向にある。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	
重要業績評価指標（KPI）③	指標名	町観光入込客数（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	550,860	400,000	560,600	566,000	B
	実績		498,907	497,434	561,464	
	分析	計画値に達していないものの、基準値を大幅に上回る数値に増加している。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-	

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の定例開催としたオンライン移住相談会は堅調な予約状況となっている。 ・コロナ禍においても、ラディアン利用率や町観光入込客数などが、回復傾向にある。 ・令和5年3月に二宮町観光まちづくり戦略を策定した。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ①観光協会の法人化に向けた準備を進める必要がある。 ②ラディアンの大規模改修に向けた準備とともに、図書館を町民の居場所として活用できるよう、検討を進める必要がある。 			
	改善点 (課題番号 に対応)	<ul style="list-style-type: none"> ①観光協会内に設置した検討委員会で検討を進めて行く。 ②新庁舎・駅周辺公共施設再編計画に基づき、時代に即した魅力の向上を図るとともに、有効に活用のできる施設となるよう検討していく。 			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
		<input type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取り組みが行われ十分な成果が出ていると考えられるため、さらに町民等の意見を参考に取り組みを継続していければ良いと考える。 ・他自治体の好事例を取り入れるのは良いが、全国の事例に埋没しないよう、二宮らしさを強調する独自の取り組みをしていく必要がある。 ・令和5年3月に策定した二宮町観光まちづくり戦略を踏まえ、町内の活性化と消費につながる事業を具体的に仕掛ける部署を設けるとともに、団体等の人材育成を強化する必要がある。 ・入込観光客数は、推計値であることを明記するとともに、より実数に近い数値の把握に努める必要がある。 ・図書館の年間貸出者数は増えているが、県内市町村の多くで導入が進んでいる図書館のオンライン貸出にも取り組んでいく必要がある。 			

施策評価シート（令和4年度 実績）

基本目標	新しい人の流れを生む魅力あるまちをつくる
------	----------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	特色ある教育活動の推進	評価者	教育部長
----	-------------	-----	------

施策内容	二宮町で進めている小中一貫教育等の特色ある教育活動は、子育て世代の転入も見据えた大きな魅力であるため、さらなる教育内容の充実を図ります。また、教育の質の向上のため、教職員の働き方改革も併せて推進していきます。		
------	--	--	--

主な事業	予算等事業名		行政評価結果	KPI達成への有効性	説明
	1	小中一貫教育研究事業（教育研究所経費）		良好	有効だった
2	英語教育推進事業		適当	有効とは言えない	コロナ感染の影響で英検3級の取得率が計画値に達しなかった
3	ICT教育推進事業		適当	有効だった	小中学校において、ICTを活用した授業を週の半数以上実施できた
4	コミュニティ・スクール運営促進事業		適当	有効だった	学校運営について、地域連携による活性化を図ることができた
5	地域学校協働活動推進事業		適当	有効だった	放課後子ども教室の実施回数増に伴い、参加者もさらに増大した

重要業績評価指標 (KPI) ①	指標名	中学3年生の英検3級取得率（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	45.8	50.0	50.0	50.0	D
	実績		35.2	42.6	18.1	
	分析	コロナ感染症の影響で試験の実施回数自体が減ったことにより、受験者数が減少した。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-		

重要業績評価指標 (KPI) ②	指標名	将来に夢や目標を持っている児童生徒の割合（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	75.6	76.1	76.6	77.0	B
	実績		コロナに伴い中止	72.2	73.3	
	分析	現在の指標では施策の進捗が測れないため、次期計画では指標を見直す。				
方向性	指標の見直し	目標値（指標）の見直し案		教育施策の認知度		

重要業績評価指標 (KPI) ③	指標名	放課後子ども教室の参加率（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	15.5	16.0	16.5	17.0	A
	実績		19.5	26.9	36.4	
	分析	順調に実績を上げ、とても良好である。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-		

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	・二宮町小中一貫教育推進計画を策定し、令和5年度から施設分離型小中一貫教育を進めるため、具体的な方策を検討した。小中学校の交流会の増加、小学校間の同学年の交流会の新設、カリキュラム研究を進めるための支援体制を構築することとなった。			
	課題	①放課後子ども教室の参加率が年々上昇していることは、とても良いことであるが参加者数の増加に伴う対応・支援方法を工夫する必要がある。			
	改善点 (課題番号に対応)	①次年度以降の開催に向けて、放課後子ども教室の運営方法を工夫したり、開催場所の変更などを検討していく。			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
		<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<p>・語学力やICT環境の整備など、現在の社会情勢に合った教育活動への取り組みは評価できるが、特色あるというよりは標準的な内容に感じた。魅力あるまちづくりのためには、町の特徴を活かした特色ある教育環境をつくる必要がある。</p> <p>・英語検定3級の取得も悪くないが、自動翻訳精度が格段にあがっているなか、良く目標に掲げられる「世界に通用する人材」となるには、例えば、中学生のころからプラトンや孔子などの古典に馴染んでおくなど、教養や道徳を学べるようにした方がよい。</p> <p>・KPI①「中学3年生の英検3級取得率」は、新型コロナウイルス感染症の影響で試験実施数が減ったのであれば、目標値を下げて評価しても良かったのではないかと。</p> <p>・英語教育推進の進捗をはかる指標として、外国人による講義や交流事業の実施数、学生参加者数なども考えられるのではないかと。</p> <p>・KPI②「将来に夢や目標を持っている児童生徒の割合」は、目標値の設定が困難な数値であり削除とする意図も理解できるが、教育施策の認知度とするのは適切ではなく、児童生徒自身が評価する指標を検討するべきである。</p> <p>・教育施策の認知度をもって施策の進捗を測定するのは非常に曖昧で、指標を見直すのであれば、現在の教育への満足度のように分かりやすいKPIとする必要がある。</p>			

施策評価シート（令和4年度 実績）

基本目標	出産・子育てを支え、子育てを楽しめる環境をつくる
------	--------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	妊娠から子育てまでの切れ目のない支援	評価者	子育て・健康担当参事			
施策内容	少子高齢化や核家族化の進展に伴い、育児不安を抱える保護者が増える中、安心して子育てを楽しめるよう、気軽に相談できる体制や包括的な子育て支援体制等の環境を整えます。また、発達相談を含め、学齢期までの切れ目のない支援体制を整えます。					
主な事業	予算等事業名	行政評価結果	KPI達成への有効性	説明		
	1	子育て世代包括支援事業	良好	有効だった	訪問や相談など継続して実施した。	
	2	育児発達支援事業	良好	有効だった	育児教室や発達支援教室を継続して行った。	
	3	教育相談・教育支援室事業	良好	有効だった	児童生徒が抱える問題や悩みに、きめ細やかな対応ができた。	
重要業績評価指標 (KPI) ①	指標名	乳幼児全戸訪問事業の訪問率（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	100	100	100	100	B
	実績		51.7	86.2	99.1	
	分析	訪問できなかった家庭についても電話等でフォローを行った。				
	方向性	指標の見直し	目標値（指標）の見直し案	乳幼児全戸訪問事業のサポート率		
重要業績評価指標 (KPI) ②	指標名	育児について困ったとき、気軽に相談できる人や場がある保護者の割合（％）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	93.7	94.7	95.7	96.7	B
	実績		91.8	96.8	84.6	
	分析	気軽に相談できる関係づくりを行ってきたが、計画値を下回った。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案	-		
重要業績評価指標 (KPI) ③	指標名	児童相談員の相談受付回数（回）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	423	448	473	500	A
	実績		335	634	839	
	分析	より事業の進捗状況を測るために適切な指標に見直す。				
	方向性	指標の見直し	目標値（指標）の見直し案	養育支援事業のサポート率		

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	・子育て世代包括支援センター「にのはぐ」で相談や健診、訪問などを行い、切れ目のない支援に取り組んだ。			
	課題	①児童相談や発達相談などニーズが多様化してきている。			
	改善点 (課題番号 に対応)	①関係部署や関係機関との連携を密にし、ニーズにあった支援を進めていく。			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
		<input type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<p>・核家族化で初めての出産・育児に伴う孤立感と不安感が大きいと言われる中、多角的な支援体制ができていよう見受けられる。</p> <p>・KPI①「乳幼児全戸訪問事業の訪問率」の見直しは妥当と考える。</p> <p>・KPI③「児童相談員の相談受付回数」の見直しは妥当と考える。</p> <p>・相談したい方がコンタクトしやすい環境を整備するのが肝要であり、サポート率測定をどのように設定し網羅するかが重要であるが、試行錯誤と議論を重ね有効なKPIとする必要がある。</p> <p>・乳幼児健診は3歳児健診の後、就学前健診となるため、任意の5歳児健診の導入も検討してはどうか。</p>			

施策評価シート（令和4年度 実績）

基本目標	出産・子育てを支え、子育てを楽しめる環境をつくる
------	--------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	仕事と子育ての両立支援	評価者	子育て・健康担当参事			
施策内容	誰もが希望する生活スタイルに合わせ、子育てができる環境を整えることで、子育てをしながら多様な働き方などが選択できるよう支援します。また、この取り組みにより、性別を問わず、個人の希望に沿って子育てや就業等に関われる意識を向上させます。					
主な事業	予算等事業名	行政評価結果	KPI達成への有効性	説明		
	1	子ども・子育て支援給付経費	適当	有効だった	保育所等で児童の受入れを継続して行った。	
	2	子育てサロン及び一時預かり運営事業	適当	有効だった	子育てサロンでの相談、一時預かりを継続して行った。	
	3	子育て支援対策事業	適当	有効だった	ファミリーサポートセンターで児童の預かりを継続して行った。	
	4	病後児保育事業	良好	有効だった	病後児保育を継続して行った。	
	5	学童保育所維持管理経費	適当	有効だった	学童保育の受入れを継続して行った。	
重要業績評価指標（KPI）①	指標名	保育園の待機児童数（4月1日現在）（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	1	0	0	0	A
	実績		0	0	0	
	分析	計画値である待機児童「0」を達成しており、取り組みは良好である。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			
重要業績評価指標（KPI）②	指標名	ファミサポまかせて会員数の推移（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	62	65	70	75	A
	実績		69	75	83	
	分析	まかせて会員登録時の講習を受講しやすいカリキュラムに工夫し、登録者数も増加した。				
	方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案			
重要業績評価指標（KPI）③	指標名	児童数に対する学童保育所利用者の割合（%）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	23.6	24.7	25.8	27.0	B
	実績		23.7	23.9	26.6	
	分析	より事業の進捗状況を測るために適切な指標に見直す。				
	方向性	指標の見直し	目標値（指標）の見直し案			学童保育所の待機児童数（4月1日現在）

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	・保育所や学童保育を運営するとともに、一時預かりやファミサポの預かりなど、継続して子育て支援に取り組んだ。			
	課題	①保育士、学童保育所支援員等の人材確保が課題となっている。			
	改善点 (課題番号 に対応)	①保育士等の処遇改善や確保に向けた取り組みを行う。			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
		<input type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIが目標値に達していない項目もあるが、順調に施策が進捗している。 ・今後、宗教や習慣が違う外国人への対応についても研究する必要性が生まれる可能性がある。 ・多子家庭への支援を引き続き検討してもらいたい。 ・KPIについて、第3期総合戦略で設定される「学童保育所の待機児童数」を含め、すべて行政側の理屈による成果指標となっており、「利用者側の要望・希望に基づくサポート率評価」の指標がないため、検討が必要である。 			

施策評価シート（令和4年度 実績）

基本目標	地域産業の振興を図り、仕事を生み出しやすい環境をつくる
------	-----------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	地域商工業の活性化	評価者	環境・産業担当参事			
施策内容	町内の産業の活性化を図るため、商工会等と連携し、起業及び経営支援を行うとともに、地域資源の活用や地域ブランドの育成により、新たな魅力の創出を促進します。また、キャッシュレス決済やワーキングスペースなど、新しい時代の流れに沿った多様な働き方に対応した環境整備について検討していきます。					
主な事業	予算等事業名	行政評価結果	KPI達成への有効性	説明		
	1	商工業振興対策経費	適当	有効だった	事業継続支援などの補助事業を実施し、事業者を支援した。	
	2	中小企業金融対策事業	適当	有効だった	令和3年度に引き続き事業者支援を推進した。	
重要業績評価指標 (KPI) ①	指標名	起業相談件数（件）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	22	20	20	20	A
	実績		20	30	27	
	分析	計画どおり推進できた。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-		
重要業績評価指標 (KPI) ②	指標名	二宮ブランドの新規認定商品数（件）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	3	3	3	3	C
	実績		0	0	2	
	分析	現在の指標では施策の進捗が測れないため、次期計画では指標を見直す。				
方向性	指標の見直し	目標値（指標）の見直し案		二宮ブランドの認知度		
重要業績評価指標 (KPI) ③	指標名	中小企業融資件数（件）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	11	30	10	10	A
	実績		20	11	20	
	分析	計画どおり推進できた。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-		

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響に対する補助事業（第3次中小企業等事業継続支援金、プレミアム商品券）の実施、商工会や金融機関と連携し創業支援を行い、事業者への支援を図った。 ・中小企業や創業者に対し、運転資金や設備資金の融資による下支えを行い、また、利子補助制度や信用保証料補助制度により、事業支援に努めた。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ①新型コロナウイルスによる商工業への影響は徐々に回復傾向にあるものの、活性化に向けて今後も継続的に支援を推進していく必要がある。 ②二宮ブランドの認定件数を維持することに加え、認知度の向上を図る必要がある。 			
	改善点 (課題番号に対応)	<ul style="list-style-type: none"> ①事業者への支援については、対話を通じてニーズを的確に捉え支援策を実施する。 ②二宮ブランドは、商工会や事業者と連携を図り、販路や周知方法等の検討を通じ、認知度の向上に努める。 			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
	<input type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった	

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ活性化の面からも、商店街を一つのコミュニティプレイスとして、商品と情報の交換の場として捉え、町として支援していくことも検討してはどうか。 ・KPI②「二宮ブランドの新規認定商品数」を見直すことは適切だと思うが、認知度で評価するのは難しいと考える。 ・二宮ブランドの知名度をもっと高めるため、企業などの力も借りながら積極的にブランド展開していく必要がある。 ・起業開業件数、雇用創出数などのアウトカム指標があると事業の進捗や効果が分かりやすい。 ・事業主の高齢化や後継者問題などで廃業する店舗が増加する中、町内でキャッシュレス決済を導入する施策には、事業者の意向を把握したうえで行政側の積極的なアプローチと支援策が必要である。 ・主に現金決済をする高齢者の感染症対策としても、高齢者に適したクレジットやプリペイド機能を有したキャッシュレス決済の導入は重要な施策と考える。第3期総合戦略ではキャッシュレス決済の導入支援について一歩踏み込んだ記載となっているため、行政が商工業の振興を目指して関係団体と連携してサポートを行うとともに、商工会へのエールを含めてKPIを設定するべきである。 			

施策評価シート（令和4年度 実績）

基本目標	地域産業の振興を図り、仕事を生み出しやすい環境をつくる
------	-----------------------------

施策評価（施策主管部長）

施策	地域農林業の活性化	評価者	環境・産業担当参事			
施策内容	食糧の自足だけでなく地域環境の保全の観点からも、農林業に対する取り組みは重要であると認識し、新規就農者の確保や特産物の普及、有害鳥獣対策など、多方面からの支援を実施します。					
主な事業	予算等事業名	行政評価結果	KPI達成への有効性	説明		
	1	農業振興事業	適当	有効だった	新規就農者への支援や農産物の普及促進により、農業振興に取り組んだ。	
	2	遊休・荒廃農地対策事業	適当	有効だった	農地パトロールの実施により、遊休荒廃農地の解消に努めるよう促した。	
	3	特産物普及奨励事業（農業再生事業）	適当	有効だった	落花生とオリーブの生産補助により、町の特産品として生産量確保に努めた。	
	4	有害鳥獣対策事業	適当	有効だった	有害鳥獣対策協議会との連携や農作物被害の防除に対する支援に努めた。	
重要業績評価指標（KPI）①	指標名	新規就農者数（人）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	2	2	2	2	C
	実績		2	3	1	
	分析	計画値下回っているが、就農を目指す研修者と情報共有を図れているため良好である。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-		
重要業績評価指標（KPI）②	指標名	町内オリーブの生産量（トン）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	1.1	1.5	1.8	2.1	C
	実績		1.09	1.41	1.29	
	分析	計画値は下回っているが、支柱等の補助で成木が増えつつあるため収穫の増が見込めている。				
方向性	継続推進	目標値（指標）の見直し案		-		
重要業績評価指標（KPI）③	指標名	有害鳥獣の捕獲数（頭）				
		基準値	R2	R3	R4	達成状況
	計画	57	120	100	100	C
	実績		124	51	24	
	分析	現在の指標では施策の進捗が測れないため、次期計画では指標を見直す。				
方向性	指標の見直し	目標値（指標）の見直し案		遊休荒廃地の復元整備支援件数		

達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

施策の取り組み	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金による支援により、遊休農地の一部解消や農地の集約をすることができた。 ・オリーブは農業法人による生産量が増加傾向にある。また個々の農業者には、継続的な栽培ができるよう資材等の補助を実施した。 ・豚熱の影響かは不明だが、捕獲頭数は減少し、出沒確認区域も縮小している。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ①新規就農者の確保を含め、農業の担い手不足は深刻な問題であり対策が必要である。 ②オリーブの生産性を高め、生産量の安定を図ることが必要である。 ③鳥獣による農業被害を完全に無くすことは困難であることから、農業者と連携し更なる対策が必要となる。 			
	改善点 (課題番号 に対応)	<ul style="list-style-type: none"> ①全国的に担い手が不足しているため、県やJAと支援策の連携をし、新規就農者の確保に引き続き努める。 ②特産物であるオリーブの付加価値を高めるため、地域団体商標の認定に向けて周知性を高める策を検討する。 ③有害鳥獣対策協議会との連携を図り、防除策に対する支援や県補助金による捕獲奨励などにより、鳥獣による農業被害の防止に努める。 			
	評価	<input type="checkbox"/>	地方創生に非常に効果的であった	<input type="checkbox"/>	地方創生に相当程度効果があった
	<input checked="" type="checkbox"/>	地方創生に効果があった	<input type="checkbox"/>	地方創生に対して効果がなかった	

外部評価（二宮町政策評価委員会）

施策評価	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要	<input checked="" type="checkbox"/>	施策実現に向け順調であるため継続実施
	<input type="checkbox"/>	施策実現に向け課題があるため見直しが必要		
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模農業が難しい二宮町では、小規模な有機野菜や特産品など付加価値の高いものを生産し、出荷することになるが、販路の確保が重要であるため、生産から加工、販路確保まで地続きの支援が必要である。 ・遊休農地対策として、新規就農者やオリーブ等の特産品栽培者を対象にした遊休農地活用マッチング支援に取り組む必要がある。 ・オリーブを町の特産品にするためには、知名度の向上のほか、生産数や販売数の増加が必要であり、町として重点的に生産者をバックアップする体制や町全体で気運を盛り上げる取り組みが必要である。 ・KPI③「有害鳥獣の捕獲数」の見直しと、新たな指標「遊休荒廃地の復元整備支援件数」は妥当である。 			